

九州大学附属図書館蔵『さころも』：解題と翻刻 (三)

閻, 紹婕
九州大学大学院人文科学府：博士後期課程

張, 愚
九州大学：専門研究員

<https://doi.org/10.15017/1916255>

出版情報：文献探究. 55, pp. 54-65, 2017-03-31. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：

九州大学附属図書館蔵『さころも』解題と翻刻(三)

閻 紹 婕 ・ 張 愚

凡例

- 一、九州大学附属図書館蔵『さころも』(細川文庫本)を底本とした。
- 一、底本の表記通りに翻刻することに努め、漢字、仮名などはすべて原文のままとした。また、不審箇所は底本の通りにし、右脇に(マ)を付した。
- 一、底本に施されたミセケチは、原文の左に「ㄱ」を付し、その右に記した。また、補入記号は、「・」で本文中に記載し、その右に補われた語句を示した。
- 一、各面の配字配行を忠実に再現し、各行末にカギ括弧を付ける。表裏は「オ・ウ」と表示した。

本文

- 1 おもひわひ侍なはかよわぬさと
- 2 にゆきかくれなんさやうな
- 3 らんおりさそかしともおほし

- 4 いてさせ給へかしとてなとなく
- 5 なくなんきこえしらせさせ給
- 6 ことゝもおもひやるへしされ
- 7 といとちかくしも候はぬ人は
- 8 いつちもけちかき御ならひに
- 9 めたゝぬなんめりかしゑみさ
- 10 ふらはんとて人ゝいますこし
- 11 ちかくまいりたれは心ちのれ」(四七・ウ)
- 1 いならぬとまきはしてちぬさ
- 2 き木丁ひきよせてふさせ給
- 3 ぬれは君もかほにやしるからん
- 4 とおほせはゑにまきはしてた
- 5 ち給ぬるにみやはおほしつゝ
- 6 くるにかゝる心のをはしける人
- 7 をつゆしらてなつかしうたれ
- 8 よりもおもひてあけくれさし

9 むかひてすこしけるよとうと
10 ましうをそろしきにもさるへ
11 き人／＼の御あたりならてをひ
「(四八・オ)

1 いてにけるをあはれにおほし
2 しられてやかてふしくらし
3 給えるを御めのとたちなと
4 れいならぬ御けしきなる
5 はいかなる事そとあやし
6 かるをたれもかゝるこゝろを
7 みしらぬにかやうにてつね
8 にあらははつかしもあるへ
9 きかなとおほすにありてうき
10 世はとけふそおほししられ
11 ける中將のきみもこといて
「(四八・ウ)

1 そめ給てのちはいとゝしの
2 ひかたきこゝちのみみたれま
3 さり給てつく／＼となかめふ
4 し給えり殿ゝ御まへよりま
5 いらせ給えとあれはなにとなく
6 心ちのなやましけれとさきこ
7 ゑ給はゝをとろ／＼しうさ
8 はき給はんもきゝにく

9 ければしやうそくしとけ
10 なけにしてまいり給ひんの
11 わたりうちとけてないかしろ
「(四九・オ)

1 なるうちとけすかたのうる
2 はしきよりもかくてこそ
3 みたてまつるへかりけれとみ
4 ゑてみまほしくなつかしき
5 御ありさまのし給えるを
6 れいのくちもあはせすゑ
7 みひろこりてよさり中宮
8 いてさせ給はんにまいり給へ
9 うゑもあまりひさしうとり
10 こめたりとおほせられたりなど
11 の給て源氏の宮の御ことを
「(四九・ウ)

1 春宮はかく心もとなか^せ
2 給にいたうわひさせたてまつる^せ
3 うらみさせ給にすゝしうなり
4 てさもやとおもふを右大殿の
5 たゝ一人^{三人}かしつかるゝむすめ
6 十にたにならはと心もとなか
7 られけるからうして此八
8 月にまいらせんと御けしき

9 とらるゝをせいすへきにあら
10 す又きしろい給はんもひ
11 むなければ冬つかたさらす」(五〇・オ)

1 としかへりてなとおもふは
2 いかゝすへからん春宮もいそ
3 かせ給内にもさこそあらめと
4 御けしきあれとなにとかは
5 人のいつしかと思ひそかれん
6 ことをとゝめんもいとをし
7 かるへきことそときこえあは
8 せ給をそこにはつゐの事
9 さこそはあらめと思ながら
10 むねはいとゝふたかりてけし
11 きやかはるらんとおもふをつれ」(五〇・ウ)

1 なくもてなして人のことを
2 のへさせ給はんもいとをしく
3 や侍らん此御事はいつもの
4 とかに侍なん権中納言みにそふ
5 かけにてさはくなれはわつら
6 はしくていそかるゝとそうけ
7 給はりしなと申給へはこゝにも
8 さおもふなり右おとゝひす

9 らんむすめこの御かたちには
10 ゑこそならはさらめそむわ
11 うたちてはなたかにきら／＼」(五一・オ)

1 しきさまにやあらんとをし
2 はからるゝはゝめのとよりほ
3 かにあたりにもよせすわな
4 くこそかしつくなれ身つ
5 からくゆる宮はらのやう
6 にやあらんとてわらひ給へは
7 このおもひかけさりしよひの
8 ほかけにはさまてたまのき
9 すにはみえさりしかとはなた
10 かはいとよくいひあて給えり
11 とほゝえまれ給をみしり給て」(五一・ウ)

1 わかゝりしときかひはみつ
2 ねにせしかはさま／＼なる人
3 をあまたみしかな人はありかた
4 き物そかしおもふさまなる
5 人にあふ事はいとかたきわ
6 さなりや故院のこと／＼にはい
7 みしうおほしめしなからこ
8 のかたはあやにくにせいせき

9 せ給てさいなみこゝのえのう
10 ちよりもたえ／＼ゆるさせ
11 給はさりしかとかしこくぬす」(五二・オ)

1 まはれていたらぬくまもな
2 かりしかはかくさま／＼ゑさら
3 ぬ人あまた物し給しに
4 をしけたれてわすれしと
5 おもひしもをのつからありし
6 かともかひなくてこそやみにし
7 かとむかしの事おほしいてた
8 りわかよりやむことなき
9 さまにさたまりぬるはおも
10 らかによき事なりひとり
11 あるはをのつからさもあらん」(五二・ウ)

1 こゝろもあくかれてかる／＼し
2 くわるきことそなどの給て
3 かの御けしきありしふちの袖は
4 いとかたしけなき御ことにこ
5 そゝのちうち／＼にあんない
6 きこえさせぬはひんなきこと
7 なりよからん日中納言のすけ
8 にほのめかし給へなどのたまへ

9 はあなむつかしやありはつまし
10 き世中にさる事さえきかん
11 よときくにつけてそあつかは」(五三・オ)

1 しきよるのころもなりける
2 御こゝろさしはかたしけな
3 なからさはかりのことをうけ
4 とりきこえなんやなか／＼な
5 めかるらんとてすさましけ
6 なる御けしきなれは心にい
7 るましきことなめりとひか
8 ひかしかるへきわさかなとおほ
9 すに物しけなる御けしき
10 なれはわつらはしけにてたち
11 たまふにも」(五三・ウ)

1 ほかさまにしほやくけふり
2 なひかめや浦風あらく波は
3 よすともとたゝくちすさみつ
4 つはゝ宮の御まへにまいり給へ
5 れはあつけにや此ころそいたく
6 やせてみえ給とて心くるしけに
7 おほしたるけしきあくまで
8 らうたけにみえ給おとの

9 さはかりのこるくまなくみ
10 あつめ給けんにおやと申な
11 からもすくれたる御おほえ」(五四・オ)

1 ことはりそかしとみえ給夏や
2 せとはゑせ人のことくさかな
3 とかやかたへすゝしき風にし
4 たかはんもあしかるへきこと
5 かはなとかうしもいひをき
6 けんわたしもりにやとはまし
7 とゑみ給えるけしきのさと
8 こほれかゝるやうにし給へる
9 をめつらしからん人のやうに
10 わかき人／＼めてたてまつる中
11 に中務といふ人みちのおく」(五四・ウ)

1 のはてなるとなけきし人のあ
2 りしこそにくからねとひとり
3 ことにいふをしりめにみをこ
4 せ給ていかにそやのこりゆかし
5 きひとりことかなとの給をあ
6 なわひしきこえけるにやと
7 わふるさまもにくからずみ
8 わたし給殿のこの宮に御文

9 まいらせよとの給へるこそなを
10 さりことにてたに大宮のきゝ
11 給てあさましうめさましき」(五五・オ)

1 ことゝむつかり給なる物を
2 さやうにほのめかしたてま
3 つりてはしたなめられた
4 てまつりたらんこそたゝ
5 ならんよりは心やましけれ
6 たゝさはかりの御けしきに
7 てそのよのめいほくかきり
8 なかりきかし中／＼なる事
9 はいひいてしうゑもあはれ
10 とりとそおほされんかす
11 ならぬ人はすき／＼しう」(五五・ウ)

1 あるましきことゝこのまで
2 さりぬへからんかけのこ草の
3 露よりちか／＼のしる人なき
4 たつねいてゝよすかともなれか
5 しさらすはまたいくよあ
6 るましきよにほたしなき
7 もよきそかしてとて涙くみ
8 給へるをはゝ宮いろもたか

9 ひてたはふれにもゆゝし
10 きことなの給そいみしき」(五六・オ)

1 ことなりともわか御心にこそ
2 ものうくおほされむことは
3 なにしにかましてはゝ宮さ
4 の給らん事あなちにか
5 のたまはせんを一日院のう
6 ゑのゝ給はせしことゝてかた
7 りしをかたしけなくきゝ
8 すくしてやとあんなりしな
9 とその給し内にまいるつ
10 いてにかのよりきの人はい
11 つくそとゝはせ給へはみをき」(五六・ウ)

1 し隨身こゝもとにさふらふ
2 と申せは又のひみ給しかはを
3 ろしこめて人ありけもなく
4 てさふらひしかはかたら人に
5 とひ侍りしかはなかとのかみ
6 のめなる人の家にてさふらひ
7 けりめのわらはどもの宮仕人
8 にてあまた候ける中務のみ
9 やの姫宮の御めのとにてもさ

10 ふらひけりと申せはさやうの物」(五七・オ)

1 のきあつまりたるをりのし
2 わきにや少将のめのとにやゆゝ
3 しく大納言のこせちにいて
4 たりしされ物にやとおほ
5 しやる中宮いてさせ給ぬ
6 れはみこさへうちつゝかせ給て
7 三条殿の御方にいとおほや
8 けしうきら／＼しき御あり
9 さまなり内の御つかひ日ことに
10 まいりなとして殿もかゝる程は
11 こなたにをはします宮の御かた」(五七・ウ)

1 ちありさまなどあらまほしう
2 てけたかうをかしけにてそ
3 物し給おほきおとゝの御かた
4 はなかのこのかみにてもとかし
5 はにておはすれとかゝるあつ
6 かひくさもち給はねは御あ
7 りさまひとつをいまめかしう
8 もてなし給てをしたちほこり
9 かなる御をきてにそをはしける
10 人よりけにもていてたる御物

11 このみなし給ていとわらゝかに」(五八・オ)

1 にくからぬ御心さまなるへ
2 しかくさまくにもてかし
3 つき給御ありさまともを
4 そうらやましくおほしける
5 中将の君はありしむろの
6 やしまのゝちよりはいとゝ
7 おほしあくかれまさりて
8 いかてなくさむはかりの人を
9 みてしかなとかゝらぬやま
10 なくしのひありきにこゝろ
11 いれ給めれと猶おはすて山」(五八・ウ)

1 の月みる心ちし給ていかさま
2 にしてすこしもおもひやむわ
3 さもかなとわかこゝろながら
4 くらへくるしきまでなけき
5 わひ給えりせいりやうてんの
6 わたりにもひさしうなり給
7 にければもしひまもやとお
8 ほして春宮さまにまいり
9 給へるにれいけい殿よりいま
10 かへらせ給なりけり御らん

11 しつけてあなめつらしこゝ」(五九・オ)

1 のへのうちなからもみえ給こ
2 とのかたきこそとうらみさせ
3 給へれはうちへれいならすき
4 すらへはあつさの程はかく
5 まいりつかまつらてなんけにす
6 こしおもやせ給へるさまの久
7 しようみさりつるほとにた
8 をくしくなまめかしさす
9 へてめてたきをわかき御心には
10 なつさまほしくおほさ
11 れてけちかくなれさせ給て
12 なに心ちのさのみあしかるへき」(五九・ウ)

1 ぞおもひ給ことそあらんと
2 の給へはこれ御らんせよか
3 くやせさふらへはしぬへき
4 なめりとしてさしいて給えるか
5 ひななどのしろくうつくし
6 けなるさま女もえかゝらしと
7 みえ給源氏のみやはかくや
8 をはすらんとあちきなく
9 よそへられてせちにひきよ

11 10
せられ給をあらむつかしあつ
くさふらふにとてひきしろひ
「(六〇・オ)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
給へる御あはひいとをかしく
かくやせそこなはるはかり
おもひ給らんことをこそ心
えたれなかつみのしいまねすときまことうの
まねし給なめりな人もさそ
かたりしおとゝもかゝれは
つれなきなめりいまこそ思
ひあはせらるれあなつれな
みなきゝにてたる物をゆ
かしけなかるへきわさかなと
たゝあてにの給はするをさて
はこゝろのうちしる人のあり
「(六〇・ウ)

1 2 3 4 5 6 7 8
けるにやたれけいしけん
とおほせとさらぬすき／＼し
さをたいにこのまぬにありかた
くも思ひ給へりけるしのひ
やまかなとはすくにな
まめたち給えるも猶いみし
きことゝ思ひけるけしき
なれはさらかの春のよの

11 10 9
みのゝくにやきかまほしく
おほえ給こゝにはなへたて
給そかたきことなりとも
「(六一・オ)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
いとようなりてむかしとなつ
かしういひ給へはうちわらひ
給てなに事をおもふ給え
む身のしるころもはかた
しけなきことゝけいし給
へと人のとふまてになりにつ
るわひしさ
我こゝろしとろもとろにな
りにけり袖い袖よりあまるにつゝみし涙
もるまておほしつゝけらる
なけきもけにしるかりけん
「(六一・ウ)

1 2 3 4 5 6 7 8
かしそのよもせいやう殿
にわたらせ給ぬれはほいなく
てたそかれ時にいて給に二条
大宮のかたにやりいたしたる
女車のひきかへなどして
とをき程にみえたるに物み
のすこしあきたるよりまる
かしらのすきたるあやし

10 9
とみ給にはやうやりすこ
しつればあやしひかめかと
「(六二・オ)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
おほす程にともなるわらは
へのもたる物やしるからん
此御どもの御隨身みつけて
かや／＼とをひとゝむるにえ
にけてひきとゝめられぬ
わかきおのことものいたく
とかめかゝりてしたすたれを
かけ給えるはやむことなき
そうにこそをはすらめさは
あれともしはしをしとゝめて
「(六二・ウ)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
あやにくにやりちかうるは
たそ／＼とあらゝかにとえは
にん和寺のなにかしゐき
しの御車にてはゝう多物
へわたり給なりとわなゝき
いつるわらはのあれはいてさ
はげに尼君かとみんとて
すたれをひきあくるにほ
うしをりはしりてかほをか
くしてにくるをこの尼君

11
はなとにくるそとをひて
「(六三・オ)

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
とらえてのゝしれは御車と
とゝめさせ給てひきもてくれは
ありすかはたになきことを
いとわひしうおほされてせい
せさせ給へはにかしやりつ
車なりつる人みなにけぬれ
はうしかひわらはひとりをと
らえてとうににん和しの
なにかしゐきしと申人
なりとしころけしやうし
給へる人のうつまきにこもり
「(六三・ウ)

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
たまへるかあかつきいてさせ
給はんとて車ときこえ
させ給えりつるをこよひたて
まつらんとてまかてさせ給え
りつるにいかにせさせ給える
にかゝの姫君一人をぬすみ
たてまつらせ給てにん和しに
やかてとおほしの給はせつるに
このころは大きくわんの御
と經にてさふらへはとをく・てうし
「(六四・オ)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 ろめたかりなんほうしうち
 たゝき給ほとに佛のにく
 み給にやかゝるめをみ給をし
 とゝめてしめやかにもやらせ
 給はてとしころの思ひかな
 ひていそき給程に女車と
 そみるらんとゝとくやれ
 とせめ給へはしにはしたか
 へといふふみをそこの御あ
 たりにとしころ侍るしる
 しにはきゝえてはしらせ」(六四・ウ)
 侍つる也いまよりはさらに
 さらにこのしにしたかひつ
 かはれ侍らしといひつゝくる
 さまをそろしうわひしと思
 ひたりあはれのことやいかなる
 姫君ならんらはぬことな
 らはをそろしかりつらん
 ときこえ給御ともの人／＼い
 みしうなけくけしきこそ
 し侍りつれ人はみなにけ」(六五・オ)

2 1 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 にけりこのしのゆくゑ
 たつねてまかりなんいまは
 なに事かその御房の人の
 かりもまからんと申侍るを
 いかゝつかうまつらんをはず
 へき所はたゝ此大宮にこそ
 わらはゝ申せとくち／＼いと
 をしかるをなにかはかゝる事
 をしつるとにくみ給てきは
 そのわらはをしるへにてかへ
 」（六五・ウ）
 りまかりてをこそよとの給
 はするにわらはもくらきま
 きれにけにけりわひし
 きわさかな我こし所／＼は
 そこ／＼とはきゝつれとう
 しかひわらはもなくていかゝ
 せんあえなん家ちかゝな
 れはいまたつねあひなんつい
 にしもかくれて候はんやは
 きつらんといひすてゝまいる
 」（六六・オ）
 をいかなる人のわひしきめ
 をみるらんと心くるしけれ

3 はありさまをもみんなとお
 4 ほしてかの車にのりうつり
 5 給ぬこよひはかりは大殿ゝ
 6 たいにくせまほしけれと
 7 いみしき人なりともけさひ
 8 きかけてはしりくるあし
 9 もとのゆゝしさおほしいつ
 10 るにすこしはてふれてん」(六六・ウ)
 1 かしとおほすにものきた
 2 なくてあすかいにやとりとらせ
 3 むこともかたらひにくゝおほ
 4 しわつらへは御車かえしつか
 5 はして御むまいてまいれとい
 6 はせ給へは返ぬ物いふまし
 7 き二三人はかり御ともにて
 8 このをしへきこえつるまゝに
 9 をはしたれは大宮おもてに
 10 はしとみなか／＼としてつね」(六七・オ)
 1 にみ給所なりけり門もみ
 2 なさしてうちたゝくに人い
 3 てきてとふなりうつまきよ
 4 りいてさせ給えるそとく

5 あげよといふなれはあか月
 6 こそいでさせ給はめあやし
 7 なんといふなれはいはかとい
 8 ふせう物むつかしきにかやり
 9 火さへけふりあひたるいと物
 10 むつかしけなり」(六七・ウ)
 1 我こゝろかねて空にやみち
 2 ぬらんゆくかたしらぬやどのか
 3 やり火ほいなくやおほ・まし
 4 などの給けはひありつる物ゝ
 5 ゆすりはちのこゝちしてみゝに
 6 あてゝほえきかけつるもその
 7 時はものおほえすをそろ
 8 しょうしにいりたりつるに
 9 いまはやう／＼物おほゆる
 10 にやまたこれもいかなる事」(六八・オ)
 1 そとゆめの事にまとひてひき
 2 かつきてふし給えるに車さし
 3 よせたれは火あかくともし
 4 てとし五十はかりなるおも
 5 といてきてこよひはなといて
 6 させ給えるそれいの御ことか

7 とまつむつかりてよりきた
8 れはこはやいとほいなき御
9 けしきなれば道のそらにて
10 たよひ給はんか心くるし
11 さになんをくりきこえさせ」(六八・ウ)

1 つるかゝるしるへをわすれさ
2 せ給なよいかおほすとてひ
3 きうこかし給へるに火のかけ
4 にかみはつや／＼としてうす
5 いろのきぬのなよかなるに
6 すゝしのひとえきて道すか
7 らなきわひけるにかへりて所
8 ところしろみたりひたいかみ
9 もいたうぬれたりちいさやか
10 にてらうたけなるけしき
11 ひとつ車をたにいかにそや」(六九・オ)

1 おほしをとしめつるにうち
2 をきてかへり給はんことさ
3 すかにおほしなりぬさていか
4 かおほすかへれとやとまれ
5 とやとひかへてをろし給は
6 ねはいといとうわひたるこゑ

7 にて
8 とまれともえこそいはれね
9 あすかゐにやとりどむへき
10 かけしみえねはいふけしき」(六九・ウ)

1 もみつかけみあらはさらん
2 もくちをしうそありぬへき
3 やとりして猶あすかゐに
4 かけもみんみまくさかくれ
5 人とかむとも御むかへに人まいる
6 程まてはとてすへりをり給
7 ぬるをあなみくるしとわ
8 ふるけしきをかしおとゝは
9 なに人そなをたにきかはや
10 といひわつらひてしやうし」(七〇・オ)

〈付記〉

本稿をなすにあたって、九州大学附属図書館より、資料の閲覧及び翻刻掲載の御許可を賜りました。記して心より御礼申し上げます。

(えん しょうしょう・本学大学院博士後期課程)
(ちよう ぐ・本学専門研究員)